



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月4日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ダイショー

コード番号 2816 URL <http://www.daisho.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 松本 洋助

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部広報室長

(氏名) 堀脇 裕之

四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日

配当支払開始予定日

TEL 092-611-9340

平成23年12月2日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	8,028	2.2	556	△3.3	561	△3.0	312	△2.3
23年3月期第2四半期	7,854	6.8	574	28.9	579	28.9	320	30.8

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 320百万円 (0.8%) 23年3月期第2四半期 317百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	32.42	—
23年3月期第2四半期	33.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	11,806	6,291	53.3
23年3月期	11,218	6,048	53.9

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 6,291百万円 23年3月期 6,048百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
24年3月期	—	8.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,300	2.2	1,200	△10.4	1,200	△11.2	610	△3.2	63.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 ： 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 ： 無
 - ④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年3月期2Q	9,868,800 株	23年3月期	9,868,800 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	215,817 株	23年3月期	215,701 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年3月期2Q	9,653,045 株	23年3月期2Q	9,653,424 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による消費の一時の自粛ムードから持ち直しの傾向が見られるようになったものの、電力供給不足問題の長期化や歴史的な円高、欧州における通貨危機など依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましても、消費者の低価格志向や市場競争激化による製品の販売価格下落が続くとともに、節電に対する取り組み状況などによる家庭での食事機会が増加する傾向や原材料コストが上昇する状況となりました。

このような状況のもと、当社は、基本戦略である「販売チャネルの拡大」「製品力の強化」「経営基盤の強化」に取り組み収益向上に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、小売用製品が好調に推移したことにより、80億28百万円（前年同期比102.2%）となりました。利益につきましては、原材料価格の上昇などの影響により、営業利益5億56百万円（前年同期比96.7%）、経常利益5億61百万円（前年同期比97.0%）、四半期純利益3億12百万円（前年同期比97.7%）となりました。

事業におけるセグメントの概況は以下のとおりであります。

<食品事業>

たれ類は、2月に発売した新製品で、にんにくとこの相性に注目した『鮮魚亭 ガツンとにんにくたこきゅうのたれ』や大阪発のホルモン焼きチェーン「情熱ホルモン」を展開する五苑マルシンと共同開発した『情熱ホルモン監修 情熱の焼肉だれ』などが好調に推移しましたが、前年同期実績を下回りました。業務用製品につきましては、中食向け製品が好調に推移したものの、小売用製品の減少分を補完するまでには至らず、売上高32億76百万円（前年同期比98.3%）となりました。

スープ類は、節電などの影響で夏場の売上が懸念されたものの、『CoCo壺番屋 カレー鍋スープ』や『CoCo壺番屋 チーズカレー鍋スープ』などが続伸したことや8月に発売した新製品『野菜をいっぱい食べる鍋 じゃがバター鍋スープ』や『ウインナーがおいしい ピザ鍋スープ』などの市場導入が順調に進み売上伸長に貢献し、売上高12億11百万円（前年同期比107.2%）となりました。

ソース類では、『CoCo壺番屋 煮込みハンバーグソース デミグラスカレー味』が量販店店頭プロモーションによるアプローチ強化と食べ方提案による訴求効果で大幅に売上高を伸ばし、売上高4億63百万円（前年同期比118.8%）となりました。

粉末調味料類は、小売用製品の『もちもちねぎチヂミの素』や『さっぱりビール漬けの素』が消費者の節約、簡便ニーズを捉え好調に推移しましたが、主力製品である『味・塩こしょう』類は詰め替え用を除いて、メニュー専用調味料の多様化の影響を受け、売上高16億87百万円（前年同期比99.1%）となりました。

青汁類は、販売コンクールによる販売促進活動を実施し、顧客層の拡大や飲用頻度の向上に取り組みましたが、売上高4億36百万円（前年同期比87.1%）となりました。

ドレッシング類は、葉物野菜の高騰などの要因もあり、売上高1億73百万円（前年同期比83.8%）となりました。

その他では、韓国の食文化に注目し、調理の簡便性や日本人の好みの味付けに重点を置き展開を行った『鶏肉のトッポギ炒め用セット』『ぷりぷり春雨の塩チャプチェ用セット』などの韓国シリーズ群が大きく売上高を伸ばし、売上高6億37百万円（前年同期比148.1%）となりました。

仕入商品は、売上高99百万円（前年同期比84.6%）となりました。

この結果、食品事業の売上高は79億84百万円（前年同期比102.2%）となりました。

<外食事業>

外食事業におきましては、「博多もつ鍋 来しゃい」(日本橋店・虎ノ門店・赤坂店) 3店舗を展開しております。

店舗の活性化に向けて、集客向上のための商品開発や仕入原価の低減に取り組み、さらなる効率化を推し進めましたが、東日本大震災以降の外食低下傾向や競争激化等のマイナス要因が大きく厳しい経営環境が続いております。

この結果、外食事業の売上高は44百万円(前年同期比100.5%)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ5億88百万円増加し、118億6百万円となりました。固定資産が総資産の55.2%を占め、流動資産は総資産の44.8%を占めております。主な資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が4億57百万円、「商品及び製品」が3億64百万円、「建設仮勘定」が1億48百万円増加し、「現金及び預金」が4億39百万円減少したことによります。

負債は、前連結会計年度末に比べ3億46百万円増加し、55億15百万円となりました。流動負債が負債合計の73.0%を占め、固定負債は負債合計の27.0%を占めております。主な負債の変動は、「短期借入金」が2億76百万円、「未払金」が2億26百万円増加し、「災害損失引当金」が1億8百万円、「長期借入金」が80百万円減少したことによります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2億43百万円増加し、62億91百万円となりました。主な純資産の変動は、配当77百万円の支出と四半期純利益3億12百万円の増加により「利益剰余金」が2億36百万円増加したことによります。自己資本比率は53.3%となり、前連結会計年度末に比べ0.6%減少しました。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、13億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億38百万円減少いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益5億34百万円、減価償却費2億59百万円、仕入債務の増加額1億95百万円等による増加と、売上債権の増加額4億56百万円、たな卸資産の増加額4億27百万円、法人税等の支払額2億40百万円等による減少により、前年同期比で、66百万円支出減の1億88百万円の純支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出2億47百万円等により、前年同期比で2億4百万円支出増の2億51百万円の純支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の調達3億円、長期借入金の返済1億4百万円、リース債務の返済1億16百万円、配当金の支払額77百万円等により、前年同期比3億35百万円支出減となり、収支はほぼ同額となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の通期の業績予想につきましては、平成23年5月10日に公表いたしました予想に変更はございません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産又は流動負債として繰延べる方法を採用しております。

② 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,830	1,391
受取手形及び売掛金	1,922	2,379
商品及び製品	523	887
仕掛品	2	—
原材料	214	279
その他	439	427
貸倒引当金	△75	△80
流動資産合計	4,857	5,285
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,704	1,700
土地	2,658	2,687
リース資産（純額）	570	468
その他（純額）	536	766
有形固定資産合計	5,470	5,623
無形固定資産	35	30
投資その他の資産		
投資その他の資産	853	868
貸倒引当金	△2	△2
投資その他の資産合計	850	865
固定資産合計	6,356	6,519
繰延資産	4	1
資産合計	11,218	11,806

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年 9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,296	1,491
短期借入金	184	460
未払金	899	1,125
未払法人税等	258	239
賞与引当金	376	364
役員賞与引当金	19	9
災害損失引当金	108	—
その他	416	334
流動負債合計	3,558	4,024
固定負債		
長期借入金	400	320
退職給付引当金	336	359
役員退職慰労引当金	419	436
その他	454	374
固定負債合計	1,611	1,490
負債合計	5,169	5,515
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	4,909	5,145
自己株式	△114	△114
株主資本合計	6,045	6,281
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	9
その他の包括利益累計額合計	2	9
純資産合計	6,048	6,291
負債純資産合計	11,218	11,806

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	7,854	8,028
売上原価	3,975	4,193
売上総利益	3,879	3,834
販売費及び一般管理費	3,304	3,278
営業利益	574	556
営業外収益	28	22
営業外費用	23	16
経常利益	579	561
特別損失	27	27
税金等調整前四半期純利益	551	534
法人税、住民税及び事業税	235	221
少数株主損益調整前四半期純利益	316	312
少数株主損失(△)	△3	—
四半期純利益	320	312

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	316	312
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	7
その他の包括利益合計	1	7
四半期包括利益	317	320
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	321	320
少数株主に係る四半期包括利益	△3	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	551	534
減価償却費	265	259
賞与引当金の増減額 (△は減少)	22	△12
売上債権の増減額 (△は増加)	△384	△456
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△317	△427
仕入債務の増減額 (△は減少)	157	195
その他	△55	△33
小計	238	59
法人税等の支払額	△480	△240
その他	△12	△7
営業活動によるキャッシュ・フロー	△254	△188
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△44	△247
投資有価証券の取得による支出	△3	△3
その他の収入	0	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△47	△251
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	300
長期借入金の返済による支出	△104	△104
リース債務の返済による支出	△152	△116
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△77	△77
財務活動によるキャッシュ・フロー	△335	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△636	△438
現金及び現金同等物の期首残高	2,007	1,830
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,370	1,391

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。